

## 平成 29 年度 文教福祉委員会行政視察報告書

平成 29 年 11 月 1 日

文教福祉委員会 委員長 山崎 孝一

### 1. 視察日時

平成 29 年 10 月 26 日（木）・27 日（金）

### 2. 視察地及び視察内容

京都府京都市 京都国際マンガミュージアム

廃校施設を活用した文化施設について

京都府福知山市 障害者支援施設 ききょうの杜

障がい者支援施設の就労支援の取り組みについて

### 3. 視察概要

#### ○京都国際マンガミュージアムについて

明治 2 年に開校した龍池小学校は、教育に熱心な学区内の町民の寄付で建設をされた学校であり、近年、少子化が進み近隣の 5 つの小学校が生徒不足により廃校になり統合された。その跡地利用をするためには、地域の人たちの合意が不可欠であり、多くの人々の熱意により地域の人々に理解され平成 18 年 11 月京都国際マンガミュージアムとして開館した。

当施設は、地域の人々のための集会所的な機能は残し、龍池小学校の歴史を物語るスペースも充分にとり、地域社会のシンボルとして夏祭りや地域の運動会に利用され、現在も地域から愛される施設となっている。まさに当市の廃校となった学校の利活用に求められているものそのものといえる。

施設の平成 28 年の年間来館者は約 29 万人。その中でも外国人観光客の利用が 5 万人と全体の 17% も占めるということは、やはり国際都市、京都という場所柄もあるとはいえ、とても驚きであった。

施設の概要は、旧龍池小学校校舎を増改築した延べ床面積 5,010 m<sup>2</sup>、地上 3 階地下 1 階からなる施設であり、一般公開のミュージアムエリア、京都精華大学研究エリア、地元占有エリアから構成されている。資料の収蔵点数は約 30 万点で、世界最多とされ、多くの資料が寄贈によって収集された。この施設は公民協働の考えに基づいて開設されたもので計画を市と大学で策定し、市が土地・建物を提供し、市と大学で運営、管理している。具体的に事業主体は、京都市と京都精華大学との共同事業であり、施設の管理は京都市と京都精華大学との使用賃貸借契約により、京都精華大学が利用、管理を行っている。運営は京都市、京都精華大学他からなる京都国際マンガミュージアム運営委員会が、運営、事業

企画など統括し、管理運営事務は、京都精華大学が採用した職員と京都市職員 1 名の事務局体制となっている。

総整備費は 12 億円で、そのうち、文部科学省から約 5 億円の補助金、京都市から約 1 億円の負担金、他残については、京都精華大学が負担し、地元の自治会からも校庭の整備（人工芝）のために 1,000 万円の寄付がある。

全国の自治体においても、少子化により児童数が減少し小中学校が統廃合され廃校が増えており、当市においても例外ではなく、公民協働の考えに基づいて開設された京都国際マンガミュージアムの精神は、大学を有する本市としても、龍・流連携も視野に入れた手法を検討する場合は参考とすべき事例であると考えている。

#### ○京都市福知山市 障害者支援施設 ききょうの杜について

ききょうの杜は、京都府福知山市の JR 福知山駅から東へ約 5 km 地点にある。桔梗が丘住宅団地の西端の緑豊かで静かな谷あい位置し、平成 19 年 8 月 1 日に開所した障害者支援施設で近くには小、中学校やショッピングセンター、長田野工業団地がある。施設建物も居住棟 16 棟と日中活動棟に分かれており、一見、桔梗が丘の街並みに溶け込むような住宅が立ち並ぶ感があり、初めて訪れた私たちは、障害者支援施設であることは全く想像がつかなかった。施設の概要は敷地面積 7,134.65 m<sup>2</sup>と広大であり、敷地内に管理棟（日中活動棟）建築面積 852.86 m<sup>2</sup>と居住棟 16 棟が存在する。居住棟 16 棟の内訳は入所者 70 名が各棟 5 名ずつ分けられており、そのうちの 2 棟は短期入所者 10 名の利用となっており、日中管理棟へは通所も利用可能である。総整備費は、国から 2 億 8,000 万円の補助金、京都府から 1 億 7,000 万円、福知山市から 5,000 万円の補助金、残りはみつみ福祉会が負担している。

事業内容としては、就労支援事業として就労継続支援 A 事業、就労継続支援 B 事業、就労移行支援事業の 3 つの就労事業があり、その他には自立訓練事業と生活介護事業を展開している。具体的な就労事業としては、就労継続支援 A 型事業については、現在 12 名の方が利用しており、全利用者と労働契約を締結している。基本賃金は、時間給 856 円（最低賃金）～287 円である。作業内容としては、プラスチック包装容器手選別業務（福知山市リサイクル業務委託）や外部委託清掃業務（公園、企業、集会所等）、当施設の内外清掃が主な作業である。

就労継続支援 B 型事業については現在 20 名の方が利用しており、雇用契約は必要なく年齢制限もない。工賃は 1 日 450 円である。作業内容としては、焼き菓子を施設内で製造し市役所内談話室や各種イベントでの販売している。また、市役所談話室での管理業務に加えて食品、日用品の販売や内職請負作業とし企業からの内職を請負っている。その他に清掃業務、洗濯業務が主な作業である。

就労移行支援事業については、現在 6 名が利用、工賃は時間給 464 円である。支援内容としては、座学や就労実習を通じて就労に必要な一般常識や知識向上等の助言支援を行っ

ている。また、一般就労を希望する方には、ハローワーク等の関係機関との連携を密にし就労にむけた支援に取り組んでいる。現状の作業内容については就労継続支援A型・B型の作業を実習の場としている。以上が施設の概要と事業内容であり詳細については、別添資料のとおりであるが、その中でも、ききょうの杜の支援施設の特徴として次のような点があげられる。

- ① 地域との関わり方として、地域の行事やまた、施設の行事において住民の方と一緒に楽しみている。当然、入居者も地域住民としての誇りを持ち会合や清掃活動にも率先して参加し、地域の方々と深いコミュニケーションをはかり絆を作り上げている。
- ② 就労継続支援A型、B型等の障がい者の方の就労作業状況において、いきいきと喜びを持って作業に従事されている。特に福知山市役所内に設けられている談話室における従業員の接遇の良さは特に好感を持つ。
- ③ 施設の支援策として、入所者において入所時から終焉まで支援を行っている。

以上がききょうの杜の特徴であり、このような充実した施設及び事業内容並びに支援活動が地域の中にあることの重要性を、視察に訪れた各委員及び執行部職員がそれぞれ認識したと思う。

本市には、現在、障害者支援施設の通所事業は数多く見受けられる。しかし、入所利用できる障害者支援施設は、昨年開所された1施設しかない。障がい者の方が、住み慣れた地域で安心して安全に生活していくには、住まいの確保が最重要視される。また、家族等の介助者がいなくなった場合、日常生活が不安であることからサービス事業者（社会福祉法人等）の参入を促進し、障がい者とその家族が安心して生活ができる環境づくりが必要と考える。更に、障がい者の方がいきいきと喜びを持って自立した生活をおくるためには就労は不可欠である。障がい者の方の障がいの状況に応じた就労支援を行うとともに、ハローワークやサービス事業者と協力をしながら障がい者の方の就労支援を促進しなければならないと考える。